

■ 工学部

建設学科
建築学コース 教育プログラム・シラバス

取得学位の名称
◆学士（工学）

プログラムの概要

建設学科建築学コースは、幅広い知識と高度な専門技術を有する建築家・建築技術者・研究者および教育者の育成を目的としています。わが国で建築学と呼ばれている分野は非常に多岐にわたり、国土計画・地域計画・都市計画・建築計画・建築設計・建築意匠・建築環境工学・建築設備・建築構造・建築防災・建築材料・建築構法・建築経営・建築史などの分野があります。一級建築士や技術士の国家試験の受験には、これら建築全般にわたる知識と設計の能力が要求されます。

修了認定の基準（ディプロマ・ポリシー）

建築学コースでは、ディプロマポリシーとなる以下の9つの学修・教育目標を定めています。

1. 科学技術に対する共通のリテラシーを身に付ける
2. 多様な主体との間で意思疎通が図れる能力を身に付ける
3. 人間と社会に関する教養を身に付ける
4. 建築技術者としての倫理観を養う
5. 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身につける
6. 人間および社会の要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける
7. 資源活用と建設プロセスを構想し、建築として実現する能力を身に付ける
8. 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築を創造するデザイン能力を身に付ける
9. 工学と芸術のバランスのとれた感性を磨く

この学修・教育目標に沿って、定められた規程分野ごとに単位を修得する必要があります。

履修条件（アドミッション・ポリシー）

1. 求める学生像

- (1) 建設の専門技術を学ぶために必要な幅広い基礎学力を有する人
- (2) 人間生活・社会・自然を含む地球環境と建築との関わりを学ぶ熱意がある人
- (3) 歴史・文化・芸術を活かした空間創造を追求する意欲のある人

2. 入学者選抜の基本方針

- (1) 高等学校の教育課程を尊重し、基本的な学力と思考力を備えているかどうかを重視します。
- (2) 建築系分野に対する熱意と理数系分野に対する能力を評価の対象とします。
- (3) 主体的な姿勢、論理的思考力、空間的把握能力、表現力、コミュニケーション能力なども考慮して評価します。

学修・教育目標を達成するためのカリキュラム方針（カリキュラム・ポリシー）

建築学コースでは、数学、物理学などの理数系基礎科目、英語や情報処理基礎、そして人文科学系、社会科学系および自然科学系の科目などを履修することで、社会人・技術者としての幅広い教養とリテラシーを身につけ、専門科目履修のための基礎を形成します。これらは主に1～2年次に履修します。

建築学コースの専門科目は主に2年次以降であり、必修科目と選択科目とから構成されます。必修科目は、建築学全般について基本的事項を学修するためのものであり、定められた全ての科目を履修するように学問上の体系と学修の順序が考慮されています。選択科目は、やや専門化した分野について学修するためのもので、上記のような各専門技術者向きの内容の選択を可能にし、各自の将来の進路に適した知見が修得できるように構成されています。卒業設計と卒業論文の両方が必修科目であることが特徴であり、修得した幅広い建築に関する知識の集大成として卒業設計を行い、各自でテーマを定めて修得した高度な専門技術を発展させて卒業論文をまとめます。

建設学科建築学コース・カリキュラムツリー

学部基礎科目または基礎教育科目	一年次			二年次			三年次		四年次	学修・教育目標
	前期	後期		前期	後期	前期	後期			
	現代社会で活躍する人材のリアリティーを培う	Integrated English I・A・I B 情報処理基礎 スポーツと健康	Integrated English II・A・II B	Advanced English I (IR)	Advanced English I (IR)	後期	前期	後期		
幅広い深い教養と豊かな人間性を養う	人文科学系科目・社会科学系科目・自然科学系科目・総合系科目・初習外国語系科目・基礎キャリア教育科目	微積分学Ⅰ 微積分学Ⅱ	常微分方程式及演習、連率、微分Ⅰ	複素関数論及演習 統計・確率Ⅱ	情報科学系科目・健康科学系科目・総合系科目・初習外国語系科目・基礎キャリア教育科目	編成分方程式、情報理論、数値解析学	振動論、計画数学	自然科学技術に対する共通的リアリティーを身に付ける		
工学のあり方と専門の基礎を学ぶ	新入生セミナー 線形代数及演習Ⅰ 力学 波動・熱力学 基礎化学Ⅰ・同Ⅱ 基礎材料化学A・同B 創成工学実践	線形代数及演習Ⅱ	基礎電磁気学 物理学実験、原子物理学	物理学実験、原子物理学	創成プロジェクト実践Ⅰ 経営工学序論	量子物理学 統計物理学	創成プロジェクト実践Ⅱ、経営工学、生産工学、知的財産権・PL法、職業指導 工業日本語応用	(2)多様な主体との間で意思疎通が図れる能力を身に付ける		
基礎学	建設学序論	測量学	建築情報デザイン	測量学	工業日本語基礎Ⅰ 工業日本語基礎Ⅱ	工業日本語基礎Ⅰ 工業日本語基礎Ⅱ	工業日本語応用	(3)人間と社会に関する教養を身に付ける		
設計図	建設図学Ⅰ	建設図学Ⅱ	建築設計製図Ⅰ 建築設計製図Ⅱ	建築設計製図Ⅲ	建築設計製図Ⅳ	建築設計製図Ⅴ	建築設計製図Ⅵ	(4)建築技術者としての倫理観を養う		
建築計画	建築計画Ⅰ	建築計画Ⅱ	建築計画Ⅰ 建築計画Ⅱ	建築計画Ⅲ 建築計画Ⅳ	建築計画Ⅴ 都市計画	建築計画Ⅵ 地区計画	建築計画Ⅶ	(5)自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける		
歴史・意匠	歴史・意匠	歴史・意匠Ⅰ	歴史意匠Ⅰ	歴史意匠Ⅱ	歴史意匠Ⅲ	建築デザイン 歴史意匠Ⅳ	卒業設計・卒業研究	(6)人間および社会の要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構想する能力を身に付ける		
建築構造	建築構造	建築構造力学Ⅰ	建築構造力学Ⅰ 建築構造力学演習Ⅰ	建築構造力学Ⅱ 建築構造力学演習Ⅱ	建築構造力学Ⅲ 建築構造力学Ⅳ	建築構造力学Ⅴ 鉄骨構造	卒業設計・卒業研究	(7)資源活用と建設プロセスを構想し、建築として実現する能力を身に付ける		
建築環境 建築設備	建築環境 建築設備	環境工学Ⅰ	環境工学Ⅰ	環境工学Ⅱ	設備工学Ⅱ 設備設計論	設備工学Ⅲ 設備設計論	卒業設計・卒業研究	(8)歴史文化を尊重し、目標を立てて建築を創造するデザイン能力を身に付ける		
建築材料 建築構法	建築材料 建築構法	構法設計	構法設計	建築材料Ⅰ 建築構法	建築材料Ⅱ 建築構法	建築材料Ⅲ 建築構法	卒業設計・卒業研究	(9)工学と芸術のバランスのとれた感性を磨く		
建設学科建築学コース専門科目	基礎段階	基礎段階	基礎段階	基礎段階	基礎段階	基礎段階	基礎段階	総合段階		